

令和6年度 第2回南牧村地域防災情報等提供施設審議会 議事概要

日時：令和6年9月27日（金）16：00～16：40

会場：南牧村役場3F会議室

参加者：南牧村地域防災情報等提供施設審議会委員7名、事務局5名（総務課職員：津金総務課長、広田課長補佐、今井係長、深沢主事、伊藤係員）

【決定事項】

次回以降、公設民営の運営形態を視察することとし、小谷村ケーブルテレビ事業を視察

【詳細内容】

1、開会

2、会長あいさつ

南牧村と同じ形態でケーブルテレビ事業を運用する南相木村を視察した。同じ公設公営でも南牧村との違いからケーブルテレビ事業への理解が深まった。南牧としては今後、ケーブルテレビ事業、自主制作番組をどのように運用していくのか。視察内容を踏まえ意見交換したい。

3、意見交換

（委員からの主な意見）

- 公設公営は運営が大変なため民営化の必要性も感じるが十分な検討が必要。
- 民営化の議論は番組を楽しみにしている視聴者の意見を聞きながら検討されたい。
- ケーブルテレビ事業の維持には複数名の育成が大切であり1名体制は困難と感じる。
- 自主制作番組は、親だけでなく子供もすごく楽しみにしている。民営化に移行していくにあたり行事は撮ってもらえるのか。役場職員が引き続き撮影してくれる形を続けてほしい。
- 公営の場合、人事異動は必須なのか？専門職採用できないか。長年、担当すれば編集も早くなる。または、人事を数年おきに循環させることも手段のひとつである。
→（事務局）一般事務で採用している以上、職員を育てるため異動で様々な経験を積むことは大切。絶対ではないが現在ケーブルテレビの専門職採用は行っていない。仮に専門職の職員がいた場合、着任している間はよいが突然の辞職があったとき、専門であれば少数の人員のためケーブルテレビ事業の安定的な運営に対しリスクは大きい。

事務局：資料「南牧村ケーブルテレビ事業運営の課題と対応の検討について」を説明。

（委員からの主な意見）

○運営について、人事異動はあるが役場職員が関わっていれば一定の安心感がある。民営化する場合は村の職員もいて、加えて民間職員で専属にできる人もいれば安定的な運営になるかと考える。

○民営化の場合はいろいろな課題がある。自主放送の内容、カメラマン撮り方の違いなど。ただ、民営化にして地元スタッフを雇うことはよい。スタジオ使用料を取るなど民営化に向けては収入面も考えていくべき。

閉会

【次回会議日程】

日時：10月31日（木）

小谷村へ視察後審議会を開催

会場：南牧役場3F会議室

南牧村ケーブルテレビ事業運営の課題と対応の検討について

1 課題

- ① 時代、住民ニーズに見合う CATV サービスとすること（ネット高速化等）
- ② CATV 運営の財政面、人材面の負担が大きいこと

2 課題に対する対応

・全国的に光ファイバ整備を行った自治体は、財政面、人材面で課題をかかえており、南牧村も同様の状況。（国はガイドラインを公表）

これらを踏まえ、CATV 事業運営の民営化を含めた在り方を検討

3 民営化の方式と主だった内容

1 公 設 民 営 (IRU 契約)	・ 村の設備を借りて、民間企業が運営を担う協定や契約。 →簡単に破棄できない安定的な IRU 契約方式を想定 ・ 設備維持の主体→行政、運営主体→民間
2 民 設 民 営 (設備譲渡)	・ 民間企業が設備を引き取り、運営も民間が担う方式 ・ 設備維持の主体→民間、運営主体→民間

【公設民営、民設民営における共通の長所と短所】

●長所

- ・ 自主番組制作、受付業務、障害対応等が不要。行政固有業務に従事。
- ・ 民間事業者主体で新しいサービスや、低価格化の期待
- ・ 受入会社がスタッフを地域採用する場合、新たな雇用が生まれる
- ・ 専門性を持った民間職員が長期に放送業務にあたるため番組の質が向上

●短所

- ・ 引き続き、施設設備の更新及び維持管理費用、労力が必要
- ・ テレビ視聴料を徴取することが一般的
- ・ 村の自主番組（YKTV 番組）は委託費を払って放送を委託すること